



## Dr's Interview.1

健康長寿社会の実現のために  
インプラントの正しい普及を

矢島 安朝 先生  
(やしま やすとも)

- 東京歯科大学口腔インプラント学講座教授
- 日本口腔インプラント学会 指導医・専門医
- 日本顎顔面インプラント学会 指導医・専門医
- 日本口腔外科学会 指導医・専門医

## Dr's Interview.2

病診連携の推奨でより良い治療の  
提供を目指す

馬場 俊輔 先生  
(ばば しゅんすけ)

- 大阪歯科大学口腔インプラント科 科長、専任教授
- 日本口腔インプラント学会 専門医
- 日本補綴歯科学会 専門医・指導医
- 日本口腔リハビリテーション学会 認定医

## Special Report

第44回公益社団法人日本口腔インプラント学会学術大会

口腔インプラント治療の“めざす”もの  
- より信頼されるインプラント治療へ-

歯科系最大規模の学術団体である日本口腔インプラント学会による学術大会の様子取材。第44回目となる本年度は4,500名を超える参加者が集い、多彩なプログラムが展開されました。



# Vol.3

健康長寿の実現のために - インプラントの“最前線”を紹介。

歯科界における「20世紀最大の発明」とさえ言われるインプラント。入れ歯やブリッジでは不可能だった噛む力を回復できるインプラントは、食事を味わうだけでなく、脳の活性化や運動能力の維持など、健康長寿を願う上で有用な治療方法ですが、その一方で、トラブルや事故がマスコミで取り上げられたため、不安を感じる方や不信感を持つ方も増えるようになりました。

今回のニュースレターでは、インプラントや歯科治療を正しく社会に普及させ、その恩恵を国民の皆さんに充分に享受していただきたいと尽力されているお二人の歯科医師にインタビューしました。また、口腔インプラント学の進歩や普及を目的とした歯科系最大規模の学術団体である日本口腔インプラント学会の学術大会の様子もご紹介します。

歯を失ってお困りの方やインプラント治療を検討されている方が、本誌を通じてインプラント治療に関する知識と理解を深めていただくきっかけとなれば幸いです。

株式会社ガイドデント  
代表取締役社長 石井 貴久

## ガイドデントについて

国内唯一の歯科分野における第三者保証機関として、「インプラント10年保証」および歯科医療における保証サービスを提供。患者様と歯科医療機関の間に立ち、安心した歯科治療選びのパートナーとして、これから治療を受ける方、そしてすでに治療を受けられた方により安心していただける環境を提供して参ります。

「インプラント10年保証」のサービスが受けられるガイドデント認定歯科医療機関は、全国に588施設あります。(2014年10月31現在)

## 会社概要

株式会社ガイドデント  
東京都渋谷区幡ヶ谷1-34-14 宝ビル3階  
(2011年11月(株)アイジーエスより事業承継)  
TEL 03-5790-5260 / FAX 03-5790-5267

【設立年月】2011年8月  
【事業内容】  
インプラントおよびその他医療における保証業務  
医療・健康分野におけるコンサルティング業務  
マーケティング、広報支援業務  
患者向けインプラント総合相談窓口  
(グローバルインプラントサポート)

## 健康長寿社会の実現のためにインプラントの正しい普及を

矢島 安朝（やじま やすとも）先生

東京歯科大学口腔インプラント学講座教授



東京歯科大学口腔インプラント学講座教授として教鞭を執り、また同大学附属病院の病院長として臨床に携わる矢島先生にインタビュー。健康長寿社会実現のための歯科界の取り組みを語っていただきました。

### Q インプラントと全身の健康の関係について教えてください。

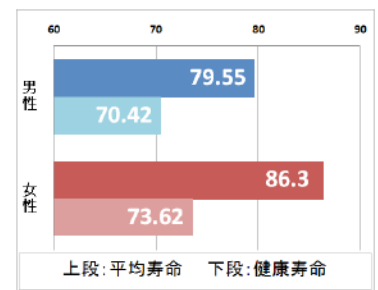
矢島先生：全身の健康と口腔ケアは密接に関係しており、噛む機能を維持できると認知症や生活習慣病の発症リスクの予防に繋がります。しっかり噛むためには天然の歯が健康な状態で残っていることが理想ですが、歯を失った場合でも諦めず適切な治療で噛む機能を回復することで、同様の効果が期待できます。失った歯の治療方法において、インプラントは飛躍的に噛む力がアップし、残っている天然の歯や顎の骨に負担をかけない点が大きな特徴です。ある施設が実施したアンケートによると、患者さんの98%がインプラント治療に満足されており、その理由として「よく噛めるようになった」「入れ歯を使わなくてよい」「見た目がいい」が上位を占めています。（九州インプラント研究会によるアンケート「インプラント治療に対する患者の意識調査」、2005年実施。回答数：1842人）

歯科医療においてインプラントは「20世紀最大の発明」とさえ言われています。しかしながら、医療事故やインプラントの使い回しなどがマスコミに大きく取り上げられ、インプラント治療のみならず、歯科医師や歯科医療そのものの信頼性が低下してしまったように思われます。

### Q 課題の解決にむけて、どのような取り組みが必要でしょうか。

矢島先生：私はこの状況下、インプラント治療や歯科治療全般を安心して受けられなくなった国民の皆さんが一番の被害者だと感じています。そして、私たち歯科医師が今やるべきことは、歯科医療の重要性を理解していただくための情報発信と啓発活動をおこない、歯科医療の社会的評価を回復することだと考えます。日本は世界一の長寿国ですが、健康上に問題がなく日常生活を送ることのできる期間を示す健康寿命は、平均寿命と比較し男性で約9年、女性で約13年もの開きがあることも判明しています。健康寿命を延ばし、平均寿命との差を縮めることは国の目標であり、真の人々の幸せでもあります。平均寿命が延びた背景には、癌などの死亡率の低下といった医学の進歩が大きく関与していますが、健康寿命を延ばすには歯科医療と口腔ケアが大きな役割を担っていることを、社会に知らしめることが必要です。

【男女別、平均寿命と健康寿命】\*



### Q 矢島先生は具体的にどのような取り組みをされていますか。

矢島先生：歯科医師会、関連学会、企業、厚労省など関係者らが団結しアクションを起こすよう働きかけています。その結果、2013年3月にこれらの組織が協力して市民フォーラムを開催することができマスコミでも取り上げられました。その後のインプラント関連の学会では一般向けの公開フォーラムをプログラムに組み込まれるようになりました。その他には国民の皆さんに、インプラントについて正しい知識を身につけ、信頼できる歯科医院を見定めていただけるよう、国民向けの新書を出版いたしました。（「歯科大教授が明かす 本当に関きたい！インプラントの話」 株式会社角川マガジズより発行）

歯科医療は国民の健康増進に寄与することが目的です。このことが広く社会に浸透し、一人でも多くの国民に健康長寿を享受して健やかな人生を送っていただきたいと切に願い、今後もさまざまなアクションを起こして参りたいと思います。

\* 資料：平均寿命（平成22年）は、厚生労働省「平成22年完全生命表」、

健康寿命（平成22年）は、厚生労働科学研究費補助金「健康寿命における将来予測と生活習慣病対策の費用対効果に関する研究」

## 病診連携の推奨でより良い治療の提供を目指す

馬場 俊輔（ばば しゅんすけ）先生

大阪歯科大学口腔インプラント科 科長、専任教授



関西における歯学部・歯科大学附属病院において唯一口腔インプラント治療を専門におこなう部門として平成9年から診療を開始した大阪歯科大学附属病院。豊富な治療経験を持つ、インプラント科、科長である馬場先生にインタビューしました。

### Q インプラント治療を検討されている方へ、大学病院の特徴を教えてくださいませんか？

馬場先生：インプラント治療はインプラントを埋め入れる口腔外科と人工歯を担当する補綴、さらに歯周治療という三つの大きな領域にまたがる、広範囲な技術・知識の習得が必要な分野です。患者さんは歯科医院と大学病院、どちらでも治療を受けることはできますが、大学病院ではこれらの領域の専門科が設置され連携が可能なこと、専用手術室や医療機器も充実しており、治療に必要なデータの取得と適切な診断が可能なが大きな特徴です。

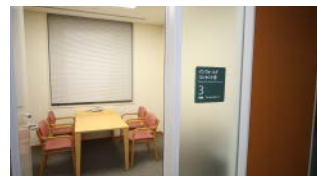
事前検査では、CTを用いて顎の骨の状態など口腔内を細部に渡り確認します、骨がやせていて大規模な骨の補強を必要とする患者さんの場合、口腔外科や麻酔科とも連携した手術を行なうことがあります。状況によっては入院していただく事もあります。また全身状態を把握するために問診だけでなく血液検査も行い、インプラントが適しているか判断します。重度の糖尿病を患っている方や骨粗しょう症の薬を服用されている方は注意が必要です。しっかりと検査と診断をおこない患者さんには十分な説明を聞いていただいた上で治療を受けていただいています。

### Q 歯科医院と大学病院の連携について、具体的に教えてください。

馬場先生：大学病院では治療の一部、例えばCTの検査だけでも受け付けています。他の例では、骨の補強処置とインプラントの埋め入れは大学病院が担当し、その後の人工歯の取り付けから治療後のメンテナンスはかかりつけ医が対応する、といった双方の得意分野を活かした**病診連携\***も可能です。このような連携は患者さんの選択肢が広がり、より安全で最適な治療に繋がると考えます。

しかしながら、歯科医院で治療を受けた後に大学病院に来院される患者さんは、連携治療ではなく、やり直し治療のために訪れる場合が多いのが現状で残念です。インプラント治療を受けた方が必ず報道で取り上げられるようなトラブルを発生するわけではなく、むしろ自分の歯と同様噛む機能を取り戻し、「よかった」と満足されている方が圧倒的に多くおられます。このような方を増やしていくことが重要で、公共医療機関である大学としての責任だと考えています。

【専用設備の整った院内】



### Q 大学病院としての取り組みや今後の展望をお聞かせください。

馬場先生：インプラントは日進月歩で研究開発が成されていますが、患者さんの長期予後については更なる研究を必要と感じています。またトラブル再発防止という観点から歯科医師に「大学病院におけるトラブル対応のデータ」を開示するなどの情報発信も重要だと考えます。難症例や専門性の高い治療に対応している大学病院だからこそ担っていける責務だと思っています。また、インプラント体などの製品に対する検証も怠ることはできません。安全性を確保できない製品があれば警鐘を鳴らしていく、これもトラブル未然防止の一環となります。大学病院がこのように体制を整え、歯科医院のパートナーシップを充実させることで、それぞれの専門分野、得意分野を活かしながら、患者さんのためにより良い治療を提供する、そんなインプラント治療のあり方が今後、増えていくよう尽力してまいります。

\* 病診連携：よりよい医療を提供するために病院と診療所（歯科医院）が適切な役割分担のもと、患者さんを紹介しあう仕組み

# 特集レポート：第44回公益社団法人 日本口腔インプラント学会学術大会 口腔インプラント治療の“めざす”もの — より信頼されるインプラント治療へ —

日本口腔インプラント学会は、口腔インプラント学の進歩や普及を目的とした歯科系最大規模の学術団体で、歯科医師・歯科技工士・歯科衛生士などを含む13,411名の会員を有します。(2013年11月30現在)  
2014年9月12～14日、第44回学術大会が東京国際フォーラムにおいて開催され、全国から4,500名を超える会員が参加する盛況となりました。

【東京国際フォーラムにて】

「口腔インプラント治療の“めざす”もの - より信頼されるインプラント治療へ -」と題された今大会では、「治療の確実性と不確実性」「治療の社会的評価を問う」をテーマとする2つのシンポジウムをはじめ、数々の講演、ワークショップや教育講座などで構成され、多方面からゲストスピーカーが招かれました。

**シンポジウム1「治療の確実性と不確実性」**では高森等氏(日本歯科大学附属病院インプラント診療センター)、井汲憲治氏(一般社団法人日本インプラント臨床研究会)、和泉雄一氏(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科歯周病学分野)の3名の講師が順に登壇し、糖尿病や骨粗鬆症がインプラント治療へ及ぼすリスクや、審美性(見た目の美しさ)の追求といったファクターの中で、インプラント治療を成功に導くための確実性や限界などが、豊富な臨床データとともに示されました。



【シンポジウムの様子】

**シンポジウム2「インプラント治療の社会的評価を問う」**では矢島安朝氏(東京歯科大学口腔インプラント学講座、教授)、鳥山佳則氏(厚生労働省医政局歯科保健課)高梨滋雄氏(高梨滋雄法律事務所)の3名が登壇し、それぞれの立場から社会からの評価や指摘される課題についての見解が示されました。矢島安朝氏はマスメディアを介し、いろいろな視点から多数の情報が発信されていることを指摘し、偏りのない情報を学会として広く発信していく必要があることを述べました。



【協賛企業の展示会場の様子】

弊社もグループ会社と合同で出展

また**特別講演**では下村博文文部科学大臣による講演「2020 夢ビジョン日本」や、参加無料の市民フォーラム「物忘れと噛むチカラー認知症と健康長寿を考えるー」などが展開され、多角的な視点から歯科インプラントの有用性、現状の課題、将来性などを考えるとともに、更なる研鑽を積む場となりました。

